

図書館報





SEASON

2019 WINTER No.44



写真：池田文庫内に掲げられている図書館指針

ISSN 1349-3760

- | | |
|---|--|
|  <p>2 コラム 掛川 三千代 経済学部准教授</p> |  <p>5 SRP活動報告</p> |
|  <p>4 学生選書ツアーを開催</p> |  <p>6 図書館掲示板</p> |

地球の健康状態を考える本

Johan Rockström他著、『Big World, Small Planet』

掛川 三千代 経済学部准教授

昨年、局地的な豪雨や洪水、台風での自然災害が多かった年である。被災した方々が、一日も早く通常の安心できる生活に戻られることを祈りつつ、今年の年頭に当たっても、自然災害による被害が出ないことを祈らずにはおられない。

日本においても、梅雨の時期に雨が少なくと感じるようになったり、局地的な集中豪雨が多くなったと感じるようになったのは、私だけではないだろう。私は、これらも人為的な原因に基づく地球温暖化による気候変動の影響とっており、自分に出来る行動をとっていかねばと、努力する日々である。

さて、気候変動の科学的データは、IPCC (The Intergovernmental Panel on Climate Change) (気候変動に関する政府間パネル) が、定期的に影響評価を行ない、情報をアップデートしている。2014年に発行された第5次影響評価の『2014年気候変動シンセサスレポート、政策策定者用要約』では、「気候システムへの人的影響は明確であり、最近の人的な温室効果ガスの排出は、歴史上、最大である。最近の気候変動は、広範囲にわたって人的及び自然のシステムに影響を与えた」との記述がある。これらの分析は、世界の著名な科学者がワーキングチームを作ってデータ分析を行い、何度もレビューを積み重ねながら、綿密な研究を実施した結果である。

また、昨年10月のIPCC総会では、「1.5℃報告書¹」が発表され、加盟国によって承認された。そこでの重要なメッセージのいくつかを紹介したい。「私たちは、より極端な気象、海水面の上昇、北極海の氷の消滅といった、1℃上昇という温暖化の影響を既に観察している」とある。ここでも、気候変動の影響が既に現実となり、起きていることが述べられている。更に、報告書は、気温が産業革命以来、1.5℃上昇した時と、2℃上昇した時の異なる影響予測を示し、気温上昇を1.5℃未満に抑えるようメッセージを出している。具体的には、「サンゴ礁は、1.5℃の気温上昇で70-90%死滅するが、2℃上昇では、ほぼ全滅(99%以上)する」との予測であり、これは非常に深刻である。科学的な根拠に基づく事実を学びつつ、今の私たちに何ができるかを、真剣に考えさせるものである。

今、人類が直面する深刻な地球規模の課題は、気候変動対策のみではない。化学肥料の投入により増え続ける窒素やリン、大企業による大規模農業経営等による生物多様性の消失、急速な都市開発や人口の過密化による廃棄物の問題、規制が適切になされていない国での大気汚染等。今日の日本では、必要な経済社会基盤も、また法的基盤も整備され、環境汚染について、殆ど心配することなく生活ができる有難い状況である。他方、世界規模

¹ 報告書の正式名: "IPCC special report on the impacts of global warming of 1.5°C above pre-industrial levels and related global greenhouse gas emission pathways, in the context of strengthening the global response to the threat of climate change, sustainable development, and efforts to eradicate poverty"



で、いや、地球規模で考えると、そうではなく、非常に深刻な状況であることに警鐘を鳴らした本が、スウェーデンのヨハン・ロックストローム(Johan Rockström)を筆頭とする研究チームが2009年頃から提唱している「プラネタリー・バウンダリー」(地球の限界)、即ち、人類が、地球上で生存していけるという安全な限界の範囲という概念である。この概念は、『Big World Small Planet』(2015、Max Strom Publishing)という本で、素晴らしい写真入りで出版されているので、是非、手にとって、写真を見つつ、読んで頂きたい一冊である。また、昨年、日本語版『小さな地球の大きな世界：プラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発』(谷淳也他訳、丸善出版)も出版されたが、やはり翻訳版ではなく、オリジナルの英語版をお薦めしたい。世界の素晴らしい風景や自然の命を感じる写真がある一方、一部の熱帯雨林が荒々しく伐採された後の写真等、今の地球上での「美」の部分と、「失」の部分の両方の写真が含まれている。写真を見ながら、本来、地球が持っている、または持っていた姿と、人間が地球に与えた影響を視覚的にも感じる工夫がされている。さて、「プラネタリー・バウンダリー」の概念に戻ると、これは、一カ国や地域の環境状況を調べるというのではなく、生命科学の視点で、地球の健康状態を計り、実際にどのような状況なのかを、一般人にもわかりやすく示すものである。ロックストロームの

研究チームは、私たちが、地球上で良好な地球を維持していく為の重要な指標として、9つの「バウンダリー」を設置した。具体的には、

(1) 気候変動(二酸化炭素濃度)、(2) 新規化学物質、(3) 成層圏のオゾンの破壊、(4) 大気エアロゾルの負荷、(5) 海洋の酸性化、(6) 生物地球化学的循環(リン、窒素)、(7) 淡水の消費、(8) 土地利用の変化、(9) 生物多様性の9つである。但し、各バウンダリーの具体的な数値(どのぐらいの量を超えると危機的なのか)については、現時点では設定できていないバウンダリーもあり、また科学者の間では議論が続くところである。とは言うもののこの9つ中、生物種の絶滅率、リン、窒素の量では、「リスクが高い」の赤信号であり、気候変動、土地利用の変化では、「リスクの増大」ということで黄信号である。本の中の美しい写真と、消滅した、または悪化した写真を交互に見て、更に文章を読み進んで行くと、現状を知るのみではなく、今の自分に出来ることを、一つでもやって行こうという気にさせてくれる本でもある。非常に便利になった今の社会に感謝をしつつも、やはり、この美しい地球を守り、次の世代に繋いで行く為に、今日も、「少し電気の節約をしよう」、「我が家から出るゴミを減らそう」、「できるだけバスや電車で行こう」と、努力する日々である。皆さんにも、是非、一読していただき、自分で感じたことをもとに、何か出来る行動を取っていかれると、地球から、また次の世代からも感謝されるのではないだろうか。

プロフィール

創価大学経済学部 准教授。

専門は開発経済学、環境政策・管理、国際開発学。国連開発計画(UNDP)、在ラオス日本大使館、外務省、環境省、国際協力機構(JICA)ベトナム事務所等で、環境政策の改善や人材育成、貧困削減対策等、途上国の開発協力の仕事に従事。2017年秋より現職。カリフォルニア大学(サンタクルーズ校)博士(環境学)。

紀伊國屋書店 新宿本店で 「学生選書ツアー」を開催しました



2018年9月22日（土）、紀伊國屋書店新宿本店にて、2018年度「学生選書ツアー」を開催しました。

学生選書ツアーは、図書館に置きたい本を書店で直接選ぶ企画です。

当日は13名の学生の皆さんと、前田館長、図書館スタッフ3名が参加し、全員で約1000冊を選書し、重複分を除いた約400冊を購入しました。

今回選書した図書は昨年11月12日から12月2日まで、参加者が作製したポップと共に展示されました。

また、選書ツアーが開催された紀伊國屋書店新宿本店でも、2018年12月23日～2019年1月7日の期間中に創大生が選書した図書が紹介・展示されました。

紀伊國屋書店展示図書一覧

請求記号

タイトル

913.6/Sa 4
913.6/A 71
913.6/Ts 93
EC-1/JL/伊
189.72/R 74
913.6/Ka 92
EC-2/FL/イ
B-1/939.17/B 41
EC-1/JL/ヒ
913.6/O 65
DC-3/Chiku/415
936/Ta 81
所蔵なし
331/Ko 26
599/Ma 27
EC-2/FL/カ
361.45/N 43
361.45/Sa 87
367.9/Ku 28
504/D 42
459/Sa 87
754.9/A 53
EC-1/JL/シ

ほんとうの花を見せにきた
図書館戦争
時をかける少女
グラスホッパー
地球平和への探究
コーヒーが冷めないうちに
じゃじゃ馬ならし・空騒ぎ
悪魔の辞典
永遠の0
チョコレートコスモス
お姫様とジェンダー ——アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門
ぼくには数字が風景に見える
注文の多い料理店
落ちこぼれでもわかるミクロ経済学の本：初心者のための入門書の入門
「幸福学」が明らかにした幸せな人生を送る子ども育て方
絶望名人カフカ×希望名人ゲーテ：文豪の名言対決
好かれる人が無意識にしている言葉の選び方
みんなひとみしり 聞きかたひとつで願いはかなう
カラフルなぼくら：6人のティーンが語る、LGBTの心と体の遍歴
この世界が消えたあとの科学文明のつくりかた
鉱物のテラリウム・レシピ：水槽とガラスびんの中に作る鉱物の庭
おりがみBest 50：英語訳つき
ビブリア古書堂の事件手帖：扉子と不思議な客人たち

紀伊國屋書店新宿本店にて展示していただいた図書の一覧です。中央図書館での請求記号を併記しました。ぜひ一度手にしてください。

S R P 活動報告

Soka Reading Project (SRP) は創立者の活字文化復興への想いを受け、「一人でも多くの学生に読書の素晴らしさを伝えよう」という志をもって集った学生有志の読書推進団体です。学生の皆さんの読書欲を掻き立てるような様々なイベントを企画し、中央図書館を中心に活動しています。2018年秋は日本語ライティングセンターと協働し、楽しいイベントが開催されました。

ブックトーク

10月19日（金）にテーマにそって素敵な本を紹介するブックトークを中央図書館で開催しました。

今回のブックトークは5人に登壇してもらいました。それぞれの登壇者はあらかじめテーマを考えて本を選んでもらい、10分の間に3冊を紹介します。そして発表の後、観客に登壇者がどのようなテーマで本を選んだかを当ててもらいました。一番読みたい本を観客に投票してもらい、チャンプ本が『コーヒーが冷めないうちに』に決まりました。

ビブリオバトル

12月12日（水）、中央図書館でビブリオバトルが開催されました。ビブリオバトルとは、本を紹介する人がお気に入りの本を限られた時間の中で紹介し、観客がどの本が紹介した本が一番読みたくなったかを選ぶ知的書評バトルです。公共図書館や書店でも行われているので、知っている方も多いと思います。

アニメーション

スペイン発祥の参加型読書会「アニメーション」が、12月14日（金）に日本語ライティングセンターとの共催（講師：総合学習支援センター・仲井間静香助教）で本学中央図書館1階ラーニング・コモンズにおいて開催されました。

アニメーションとは、1970年代にスペインのジャーナリストにより開発された参加型の読書法です。「その魂と生命に息吹を吹き込み、生き生き躍動させること」という意味合いがあり、書籍に生命を宿らせる活動を示しています。物語や詩の中にわざと間違いを入れて読み聞かせた上で間違いを探させたり、あらすじをクイズにして出題したりといったゲーム的な要素を取り入れています。今回はロシアの民話『イワンの馬鹿』を題材として開催しました。参加者が作品の別の一部分をそれぞれ読み、物語をどのように理解し、著者が何を伝えたかったのかを語りあいました。



来年度も、学生の皆さんに読書を楽しんでもらえる企画をどんどん行っていきますので、図書館webサイトをぜひチェックしてください！

中央図書館開館スケジュール

休館

10:00~17:00

08:30~21:00

09:00~21:00

3月

4月

5月

日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27	28	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

図書館Webサイトがリニューアルします！

3月に創価大学附属図書館のWebサイトがリニューアルします。スマートフォンにも対応して、図書館サービスがより使いやすくなります！

春休み長期貸出しの一斉返却日は4月9日です！

春休みも残り僅かとなってきました。春休み期間に貸出ししていた図書の返却日が迫っています。学部生などの2週間貸出対象者は3月26日までに借りた図書が、院生などの4週間貸出対象者は3月12日までに借りた図書が4月9日の一斉返却日の対象となります。どうぞお気を付けください。